

最後にもう一度 ごみ減量の方法を復習

▷食材は残さず使い切る

食材は必要な分だけ買い、食べきれなかった分は冷凍保存をするなど食品ロスを無くしましょう。



▷生ごみは水切り

市は、電動生ごみ処理機の購入補助やレンタルを行っています。ぜひ利用してください。



▷チラシや菓子箱は雑がみに分別

チラシ、コピー用紙、菓子箱などの雑がみは、紙袋に入れるか、雑誌などの間に挟んで出してください。



▷衣類は各庁舎の回収ボックスへ

市役所各庁舎に衣類回収ボックスを設置しています。透明な袋に入れて出してください。

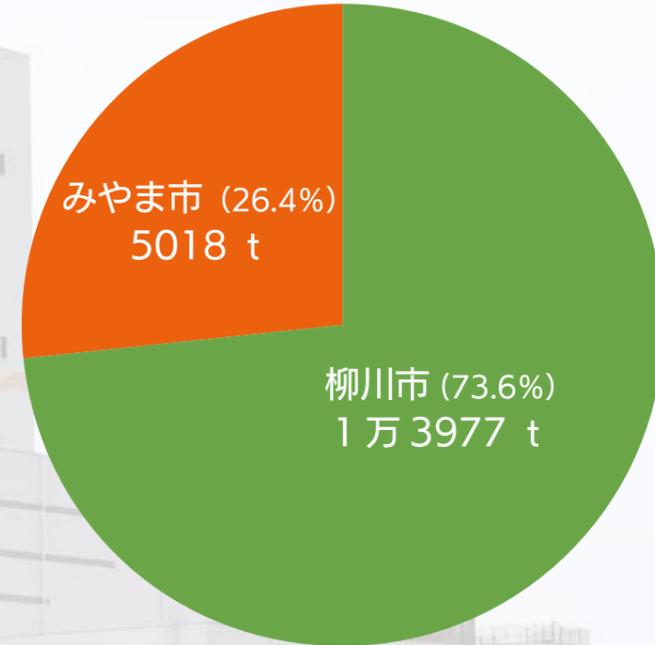


品目別 ごみ減量貢献度

ごみ減量大作戦開始前と比べて、収集量が増加した資源物をランキング形式で紹介합니다。



●算定期間中(令和4年3月~令和5年2月)の燃やすすしくないごみ量

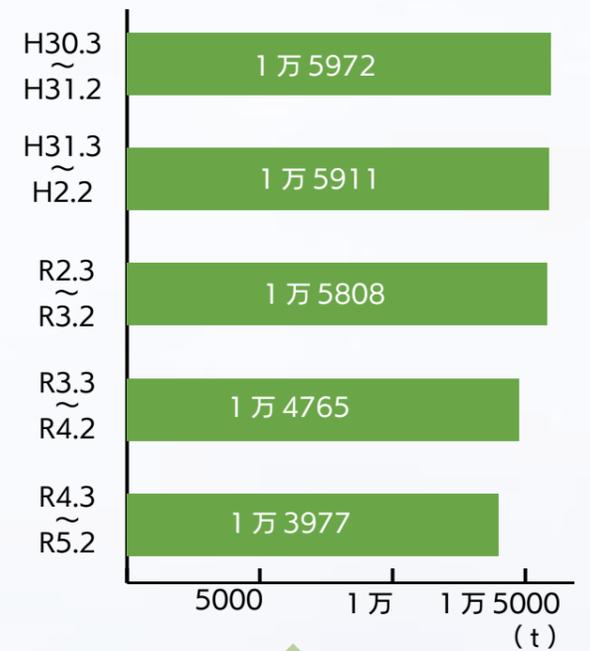


有明ひまわりセンターの建設費負担割合

柳川市 73.6% : みやま市 26.4%

73.6% : 26.4%

●市内の燃やすすしくないごみの量の変化



4年前と比較して

66万5000袋減量

ご協力ありがとうございました!



ごみ減量大作戦 成果発表

シリーズ「ごみ減量をいかにして成功させるか」(最終回)

有明ひまわりセンターの建設費負担割合を決めるため、みやま市と昨年3月から実施していた燃やすすしくないごみの量の算定期間が2月で終了しました。最終的な負担割合や、ごみ減量大作戦期間中に減量できたごみの量を発表します。

【問】市生活環境課リサイクル推進係 (☎ 88・8933)



ごみ分別アプリ

ごみの量を減らすことで、有明ひまわりセンターの負担を軽減でき、維持管理費の抑制につながります。建設費の負担割合算定期間は終わりましたが、今後も引き続き、1人1人ができることを実践し、ごみ減量への協力をお願いします。

**施設の長寿命化のため
引き続きごみの減量を**

平成31年度から始まったごみ減量大作戦。ごみ減量大作戦期間中に収集量が最も増加した資源物はプラスチック類です。燃やすすしくないごみ袋よりも安いプラスチック類専用袋の導入により、昨年3月から2月までの収集量は624トンと、4年前の159トンと比べて約3.9倍に増加しました。また、雑がみや草木、衣類の収集量は、約20%から30%増加しています。燃やすすしくないごみの中で雑がみや衣類は約40%を占めています。これらの分別にも力を入れていきましょう。

**プラスチック収集量が
3.9倍に増加**

有明ひまわりセンターの建設費は約12.1億円。そのうち、国の補助金などを除いた約85億円は、柳川市とみやま市で負担します。両市の負担割合は、昨年3月から1年間で両市から出された燃やすすしくないごみの量の割合で決まることになっていました。昨年3月から2月までに出された燃やすすしくないごみの量は、みやま市が5018トンだったため、建設費の負担割合は柳川市が73.6%、みやま市が26.4%となりました。

**負担は柳川市73.6%、
みやま市26.4%**

昨年3月から2月までの市内の燃やすすしくないごみの量は、1万3977トン。作戦開始前である4年前の1万5972トンと比べると1995トンの減量に成功しました。これは、指定ごみ袋66万5000袋分のごみ減量に成功したことになります。

年間66万5000袋分のごみを減量